



### 葎の穴から 人と水の間違ひ

「人の悪いは石城の平……」  
 恐らく、是れは名物ジャンガラ節の文句ではあるまい。では尙更らぬが平町の出の充實に迄其の氣付方を進全く知らぬ他人様の鼻唄に口たる平町は、直ちに東京めければならぬ譯だが、過ぎない……とは、百も二の入口である、朝は松ヶ岡、是れには一つ銀行屋さんに百も存じて居る、果然？平公園の鳥より早く夜は二萬も氣付方を進めなければならぬの慷慨家は、切齒扼腕して「水の悪いは石城の平」アノ汽笛の響は、東京商人……と訂正して居るが、何の「入らッしやい」の聲でな貫つて金融の圓活を畫さなしろ新興の氣運にヒカリ輝い、平商人の恐るべき商ければならぬ、然るに平町く平町民に取つては、甚だ賣敵は、向ふ三軒兩隣にあの銀行中には、預金利子に迷惑な誤解であらねばならすして寧ろ東京にあるの一割も拂つて、吸収策に流ぬ、若しも「水も人も何だ、從來平、東京の商業狀方らも……」などと、失禮態は、問屋對御商間の取引千萬な批評家があつたならに過ぎなかつたが、現在にそんな奴は、早速三春の駒於ては顧客對小賣商の關係に踏ませて、萬年瓦に代用に進んで居る、試みに平町するか丹後澤の人柱にしてのハイカラ君に聴く「氣に了ふが宜い、孰れにしても入つた良品は町にはありませぬ、それは尼子橋の下に、鯛がせん」と然るに商人側は曰泳いで居た遠い昔の話しく「良品を賣ふ者は東京で、今では螺線一つの捻ればへ行くから仕入れても駄目玉の如き甘露がコン〜とです」と濟したものだ、成湧出し、お鍋どんが赤い腰の程、足を引き摺つて、町巻洗ふにも水道の淨水だ、内の店を覗き廻つて居る間に子々の住家は鉦や太鼓で探は東京へ行つて來ると云ふしたつて、牛の涎はとも流譯合ひで、炭礦相手以外のれては居らぬ、平の人が、發展は、一寸困難である、果して唄の文句の持主であ此の點平町は地理的に餘りつたら、巨額の經費を要す惠まれ過ぎて居る、平商人る水道の如き、公共的の事業が、真に今後の發展を計るの完成は望まれない筈だ、には、平は東京の平である此一點から見ると「人もとに氣付かなければならぬ水も良いのは石城の平」と否、聰明な平は既に充分氣聲の限り唄はざるを得ない付いて居る、其の氣付いた先づ「水清く、人美し」とこの現はれ店頭の看板だ、相場が極つたとして、さて大きな看板、華やかな看板其の石城の平とは何んな町いろ〜思ひを凝らした看かと首を傾け片眼をつむつ板等、宛然たる看板の平……

#### 電燈を消すまで 春の瀧見

カツレツから  
 時は雨シタ〜と降り來る去る十日のこと場所は南町邊の某カフエーの樓上でカツレツとビール二本を振り出に座は益々熱し午後五時の開會で同十一時頃までスツカリ固まり結局室内は暗黒と化した其の謎の事體は何人か多分「春の瀧見」と云ふ噂だが異體がサツパリ明瞭でない然し城山に聞ひば其の真相が判る筈

#### 社 告

今回双葉郡浪江町へ支局開設  
 昭和六年五月  
 電話六三番  
 警城民論社

## 祝 浪 江 支 局 開 設

久ノ濱町長 (順不同) 木村倉治	浪江町長 桑島吉之助	富岡町長 早川清久	新山町長 宮本捨吉	大久村長 柳井義一	廣野村長 鈴木忠良	木戸村長 里見富士丸	龍田村長 山内元吉	大野村長 石田友宗	長塚村長 江 榮治
荻野村長 岸 博 長	請戸村長 泉 田 順	久ノ濱校長 木田茂平	浪江校長 柳 沼 德 實	富岡校長 藤 田 榮	新山校長 鈴木佐忠	廣野校長 渡 邊 銑 一	木戸校長 黒 木 忠 雄	龍田校長 瀨 谷 藤 吉	長塚校長 大 塚 吉 造
請戸校長 渡邊晴雄	熊町校長 志賀秀孝	大堀校長 木 幡 清	上岡校長 名倉末治	富岡局長 蛭田恭三	秋山齒科醫院 富岡町	消防組頭 大原榮三郎 富岡町	新築落成間近になりました 眺望第一と効顯の著しい薬湯が皆様の御 來園をお待ちしてゐます 是非一日の御清遊を……		
釘屋酒店 平町鍛冶町 電話一五五番	野村醫院 廣野村	石井齒科醫院 浪江町 電話一〇二番	浪江齒科醫院 大堀通り	新山齒科醫院 新山町	平町城山 聚 樂 園 園主 飯田近治				